



◆ 一般投稿作品 ◆

広報委員会 選

歳重ねあの日あの時終戦日
夏祭り射的三回ガムを取る
秋風はまだかくと思っ日
うぶすなで美味ものたべています
風鈴をふたつ吊して音楽し
秋立つや風の一刷け雲の宴
朝露の草刈る背中朝日射す
昼猛暑夜は虫の音心地良き
ツクツクボーシ静けさ破り独唱す
エイサーと宮廷料理の那覇の夜

荒木 景子
伊藤 清子
五百蔵利美
岡本 初美
な ず
中村 定子
原 茂
島山 千江
宮地 美代
傍士 幸子

◆ 一般投稿 (自選) 作品 ◆

はるかぜ

とさやまだファミリア
小波越え猛暑涼しく憩う朝
終戦日聞こえぬラジオ十二歳
軒下の灯籠の灯り故人を想う
誕生日又一つ増え処暑の風
新米の炊き立つ香り白き粒

雅 子
岡林由利子
青 竹
八王子小太郎
恵 美 子

◆ 「涛光」グループ ◆

トラックの軍団に揺れ七変化
さしのべて君の手をとりチューリップ
大川の中州を埋める葦若葉
花の滝散りゆく先は風まかせ
孫揃ふ父の命日盆の入り
炎天下流れる汗と読経声
浚渫の終わりにて春の水走る
栞餅を賞でてご当地お茶の席
花吹雪縄跳びの子を攫ひけり
里親の決まりし子猫うとうと
望月や深くなりゆく影二つ
ふるさとの細き流れや水澄みて
舞い納む蜂に憂いや百日紅
枇杷の花が顔を近付け散歩道

秋山 英身
茂野 光正
原 恭子
秋 星
大場比奈子
溝淵 龍泉
井上 佐和
東 月
山岸 孝子
中橋 京子
小松 美鶴
藤本すみ子
明神かおり
吉川 恵樹

かほく俳句会
夕蟬のときれとぎれに日の暮るる
白桃剥く夫の病状良きと知り
一円を使ふ買物残暑かな
いざなぎの里の湖水の盆踊
離れ家に二人の余生冷やつこ
緑陰にたばこを吹かす老翁かな
茄子胡瓜自足の日々を暮しをり
終戦の日の黙禱や髪染めて
盆棚の馬より降りし考の影

乾 真紀子
佐竹 洋子
津田吾燈人
野村 里史
古川 信子
宮崎ただし
宗石 愛喜
山崎かずみ
山崎 鈴子

香美市立美術館

アートの窓



美術館は、内装改修によりリニューアルしました。また、開館30周年を記念し、香美市の市民の方々にもあらためて美術館に注目していただけるように「きれいな絵」と題して企画したものです。これまで美術館に足を運んだことがなかった市民の方々に30年という節目に際して、わかりやすく親しみが持てる分野の絵を紹介することで豊かな時間を提供したいと考えております。

(館長 都築房子)

「きれいな絵」

(リニューアル記念事業)

11月2日(土)～12月22日(日)

休館日/毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)

【関連企画】

- ① 館長または学芸員による作品解説
会期中毎日曜日 14時～ 場所：展示室
- ② 無料day (初日は入館料無料)
日時：11月2日(土) 10時30分～17時
(入場は16時30分まで)
- ③ 土佐山田・あーとリンクvol.4 (まち歩きスタンプラリー開催)
日時：11月2日(土)～10日(日)
場所：香美市立美術館、かふえ&ぎやらりーぐらんま
ギャラリー樹下の舎



▲山本昇雲(1907年)「子供あそび ゆきだるま」



▶山本昇雲(1907年頃)「今すがた 絵まぎもの」



▶タカハシユミコ(2005年)「花園」

香美市森林環境税活用事業 申し込みいただいた方からの投稿を募集しています!!

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

しおりちゃん

卯年の娘にぴったりだと思い、「〇〇アニマル：ウサギさんセット」を選びました。丸みのある形で、子どもが口に入れても安心です。名前と誕生日、出生体重を彫ってくれていて、記念にもなって気に入っています!



※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記のメールアドレスまでお送りください。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp



俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼投稿先 総務課内広報委員会事務局 俳句・短歌係
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

今月のキラリ

広報委員会

秋立つや風の一刷け雲の宴

立秋は二十四節気の一つで、八月七日か八日頃に当る。暑さのピークの中で迎える立秋には、まだ秋の実感はない。しかし繊細な作者は、頬をすぎゆく風や、浮かぶ雲のかすかな変化に、今年の酷暑をやっと乗り越えた安堵感や、秋への思いを託して詠った、感情豊かな一句。

(季語：立秋・秋立つ(秋))

ツクツクボーシ静けさ破り独唱す

散歩に出かけると、突然、静けさを破りオースクツクと面白い鳴声を上げ、続いてツクツクボーシと何回も唸るような声で鳴き始めた。聞こえるのは、ツクツクボーシの声だけ、それを「独唱す」と感じた作者。臨場感あふれる一句。つくつくぼうしは蟬の一種で小型な緑がかった黒い体をし、透きとおった透明な羽をもっている。
(季語：法師蟬・つくつくぼうし・つくしこいし・つくつくし(秋))